

今秋の「ライティングマラソン」



今年も「ライティングマラソン (Write for Rights)」の時期が近づいてきました。手紙書きの対象は今年も10件ですが、そのうち現時点で正式に決まった7ケース(8人)について、簡単にご紹介いたします。

■**ナッシマ・アル・サダさん** (女性、サウジアラビア)
長年、市民の権利擁護に取り組んできたために、2018年の一斉取り締まりで逮捕され、現在は、独居房で勾留されています。

■**カレド・ドレーニさん** (男性、アルジェリア)
オンラインニュースサイトを運営し、国境なき記者団の同国代表も務める中、デモ取材に問題があったとして3月末から拘束されています。

■**ペインポインミンさん** (男性、ミャンマー)
風刺詩人グループ「ピーコック・ジェネレーション」で伝統芸能を演じたとき、当局を揶揄する歌詞があったとして仲間とともに逮捕・投獄されました。

■**グスタボ・ガティカさん** (男性、チリ)
心理学を学ぶ学生ですが、昨年11月に大規模抗議デモに参加した時、警官隊の散弾銃の銃弾を両目に受け、視力を失いました。

■**ジャニ・シルバさん** (女性、コロンビア)
環境保護活動家として支援する小作農たちが、資源や土地の獲得を目論む企業や麻薬密売業者などから脅迫や暴力などを受けています。共に闘うジャニさんも身の危険にさらされています。

■**ポピ・クワベさんとボンゲカ・ブングラさん** (女性、南アフリカ)
演技や歌唱の仕事求めてヨハネスブルグに引っ越してきた2人が、2017年5月に暴行を受けて殺害されました。同国では女性を狙った強かん殺人事件が後を絶ちません。

■**ジャーメイン・ルクキさん** (男性、ブルンジ)
(この「UA ニュース」の他の見出しで取り上げています)

南スーダン：マガイさんの死刑判決を破棄



©Amnestv International

大人になったら人助けをしたい...そんな健気な少年が、誤って人を殺めてしまい、死刑判決。

昨年の「ライティングマラソン」でも取り上げたこの少年、マガイ・マティオップ・ンゴングさんの上告審裁判が7月末

にあり、死刑判決が破棄され、裁判がやり直されることになり、死刑判決を受けることもなくなりました。

マガイさんは、走ることとゴスペルが大好きな中学生でしたが、偶発的に引き起こしてしまった殺人で少年の人生が暗転します。当時15才だったにもかかわらず、取り調べでも裁判でも弁護人がつかないという、当局の不当極まりない対応を受けた末、死刑判決を言い渡されたのです。

「自分はまだ15才です。人を殺してしまったのはまったくの事故です」。法廷でそう訴えましたが、判決は無情でした。マガイさんは控訴しました。

南スーダンの法律でも国際法でも、犯罪が行われた時点で18才未満の者に対する死刑の適用は認められていません。にもかかわらず、南スーダンではこの2年で、18才未満の時の犯罪のために2人が死刑を執行されています。

アムネスティは「ライティングマラソン」で、南スーダン政府に対しマガイさんの死刑判決の破棄を要請する手紙やマガイさんを励ます手紙を送りました。その数は、世界中で765,000通にのぼりました。この強力な働きかけが、南スーダン政府を動かし、7月29日の死刑判決取り消しにつながったのです。控訴裁判所が、死刑判決を破棄し、審理を差し戻しました。これで死刑はなくなりました。

マガイさんからの歓喜のメッセージです。「本当にありがとうございます。これほど嬉しいことはありません。みなさんが想像もできないほど嬉しいです！」

今後も裁判は続きます。一刻も早く公正な審理に基づいてマガイさんに寛大な判決が言い渡されることが期待されます。

米国：ケリーさんが自由の身に



米国の移民収容施設に2年11カ月も収容されていたケリー・ゴンザレス・アグイラーさん(24才)が、ようやく施設から出ることができました。

トランスジェンダー女性のケリーさんは、ホンジュラスでジェンダー差別に苦しんだ末、12才の時に国を後にしました。数カ国を渡り歩いた末、2017年に米国にたどり着きましたが、難民資格の審査中の自由は認められないとして収容施設に入れられました。3年近くに及ぶ拘束中には、トランスジェンダーだという理由で独居室に入れられていたこともありました。人道的難民認定を何度も求めましたが認められませんでした。心身ともにひどく落ち込んだといいます。今年に入ると新型コロナウイルスが猛威を振るう中、いつ感染するかもしれないという恐怖にも襲われました。

アムネスティは、LGBTI 団体とともにケリーさんの解放を求めて移民当局に働きかけをしました。UA(緊急行動)を起こし、世界中からメールや手紙を届けました。これらの行動が当局を動かす力となったようで、ケリーさんは、収容施設を出ることができました。

ケリーさんの弁護人は、「他に理由が見つからない。アムネスティらの働きかけが、当局を動かしたことは間違いない」と話しています。

ケリーさんは、熱いメッセージを送ってくれました。「7月14日、これほど嬉しい日はありません。皆さんから頂いた支援、生きる力、ICE(米国移民・関税執行局)への訴え、すべてに感謝します。皆さんの支援が大きな支えになり、やっと自由になりました。皆さんの支援がなければ、この自由はなかったと思います。May God bless you. Thank you.」

ジャーメイン・ルクキさん 裁判やり直しに



アフリカ中東部の小国ブルンジのジャーメイン・ルクキさんは、人権活動をしていたというだけで実刑32年の有罪判決を受けました。しかし、破棄院(最上級審)が審理のやり直しを命じたため、再度、無罪を

主張する機会を得たのです。

前例のない3選を果たし勢いを得たピエール・ンクルンジザ大統領(当時)が、反体制派の摘発を強化していた2017年7月、政権に批判的な人権団体が活動していたルクキさんも逮捕されました。一審で実刑32年の有罪判決を受け、控訴審でも有罪判決が支持されました。

しかし、破棄院は今年6月、有罪判決を廃棄し、審理を差し戻す決定をしました。というのも、昨年の控訴審で陪審員全員が入れ替わったにもかかわらず、それまでの審理内容が引き継がれないまま、被告人にとって不利な審理が行われた可能性があったからです。また、破棄院とルクキさんは、昨年の控訴審での審理が、世界人権宣言や市民のおよび政治的権利に関する国際規約(自由権規約)に反するという点で合意しました。その上で、破棄院は控訴裁判所に対し、あらためて審理をやり直し、原告と被告の両者が陳述した上で公正な判決を出すことを求めました。

32年の有罪判決が破棄され、裁判がやり直しになったことは、公正な裁判への大きな一歩ですが、裁判の行方は予断を許しません。

アムネスティは、ルクキさんのケースをこの秋の「ライティングマラソン」で取り上げます。ぜひ、多くの皆さんが手紙書きに参加されるようお願いいたします。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費:3000円

郵便振替:00120-9-133251

加入者名:公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本